

黄色ブドウ球菌による乳房炎に注意!

令和3年5~6月に実施した1回目バルク乳検査で43戸(45検体)中44%の農場で黄色ブドウ球菌が検出されています!

黄色ブドウ球菌って何?(おさらい)

- 顕微鏡で観察するとブドウの房のように見えることから命名
- **人や動物の皮膚などに常在**。牛では子宮、膣、鼻腔、皮膚などに常在
- 乾燥に強く、水分や栄養の少ない環境でも長期間生存可能
- 増殖する際に産生する毒素によって人に食中毒を起こす
- 牛では乳房炎の原因菌の一つ



黄色ブドウ球菌による乳房炎の特徴

- 伝染性であり、他の牛への**感染源**となる。感染した牛は**慢性化**あるいは**潜在化**
- 乳房深部に浸潤するため薬剤が到達しない。さらに免疫機能から逃れることが出来る
- 治療しても**治りにくい**
- 体細胞数を増加させる
- 環境中及びミルクカー等に付着した菌は通常の消毒薬、加熱処理で死滅

どのように広がっていくのか

感染分房や乳頭皮膚、搾乳者の手指に生息

➡ 搾乳時に手指やミルクカー、タオルを介して牛から牛へ広がる

主な予防・対策

- 正しい搾乳作業を行う、**損傷部位は感染リスクが高まるため乳頭の損傷に注意**
- 定期的なバルク乳検査を実施し、早期に発見する
- バルク乳で検出された場合は感染牛を特定
他の牛への感染を防ぐために牛の並び替えを行い、最後に搾るようにする(**手袋着用**)
- 感染分房の盲乳処理
- 搾乳衛生の見直し
- 乾乳期治療
- 高産歴牛、複数分房感染牛から優先的に淘汰



怪我や絆創膏を
している素手での
作業はNG!

黄色ブドウ球菌感染牛を摘発するには全頭検査をおすすめします。検査を希望される方は家畜保健衛生所までご連絡ください

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

お問い合わせ: 病性鑑定課 矢彦沢 鈴木